

科目名称	小論文演習				ビジネス・キャリア	( )	オフィス情報	( )	
英文科目名称	Essay Writing				グローバル・コミュニケーション	( )	医療事務・医療秘書	( )	
科目コード	532340	授業形態	演習	単位数	2				
教員氏名	田中 利砂子		年次配当	2年次	前期	ホテル・観光	( )	大学編入	(必)
実務経験教員担当	有・ <b>(無)</b>		アクティブラーニング			<b>(有)</b> ・無			
授業概要 及び授業方法	<p>大学で学ぶためには、レポートや論文を書く作業が必須である。ここでは、読み手に伝わるように筋道を立てて自分の考えを伝える力が求められる。学術的な文章を書くためには、アカデミック・ライティングの習得が不可欠であることから、小論文演習では、特に、文の構成や内容の一貫性、文章のまとまりを意識して書く技術の習得を目指す。これと同時に、現代を生きる人間として考えるべき社会問題についても取り上げ、論理的に考える力を養う。限られた時間を有効に活用するため、授業内容に即した課題レポートを定期的に課す。</p>								
関連する科目	文章表現の基礎Ⅰ・Ⅱ				卒業認定(学習成果)との関連	①, ②, ③, ④			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の説明、「アカデミック・ライティング」とは</li> <li>2. 「アカデミック・ライティング」(賛成・反対の意見を述べる) 200字で述べる①</li> <li>3. 「アカデミック・ライティング」(賛成・反対の意見を述べる) 200字で述べる②</li> <li>4. 「アカデミック・ライティング」(賛成・反対の意見を述べる) 200字で述べる③</li> <li>5. 「記述」とは</li> <li>6. 「記述」(賛成・反対の意見を述べる) 400字～500字で述べる</li> <li>7. 「記述」(利点と問題点を指摘し、問題点に対する解決策を述べる) 400字～500字で述べる</li> <li>8. 「記述」(現状を説明し、解決策を述べる) 400字～500字で述べる</li> <li>9. 「小論文」とは</li> <li>10. 「小論文」(参考資料がある場合) 800字～1000字で述べる①</li> <li>11. 「小論文」(参考資料がある場合) 800字～1000字で述べる②</li> <li>12. 「小論文」(参考資料がある場合) 800字～1000字で述べる③</li> <li>13. 「小論文」(参考資料がある場合) 800字～1000字で述べる④</li> <li>14. 「小論文」(統計資料がある場合) 800字～1000字で述べる①</li> <li>15. 「小論文」(統計資料がある場合) 800字～1000字で述べる②</li> </ol>								
授業時間外の 学 習	<p>【予習】「使用教材」の該当課を事前に読んで予習しておくこと。(2時間程度)  【復習】授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理しておくこと。定期的に課題レポートを課す(全9回)。(2時間程度)</p>								
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「小論文」と「作文」「感想文」との違いがわかる。</li> <li>② 論理的に考えることができる。</li> <li>③ 自分の言葉でまとめた内容が論理的に書ける。</li> </ol>								
課題に対する フィードバック	課題レポートのフィードバックは、授業時に適宜行う。				評価方法・基準	積極的な授業態度10点 課題レポート60点 最終レポート30点			
テ キ ス ト	倉八順子(2019)『日本語の論文力練習帳 改訂版』古今書院								
参 考 書	西研・森下育彦(1997)『「考える」ための小論文』ちくま新書								
備 考	<p>※大学編入コースの学生を対象とした授業である。  ※「文章表現の基礎Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えていることが本科目履修の条件である。</p>								